

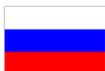


【韓国】 総合指数は週間で0.1%安と小反落、今週は景気持ち直し期待が支えか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.1%安と反落。5日がこどもの日で休場のため、4日間のみの取引。連休明け4日は約1カ月ぶりの下落幅を記録し、前週に回復した心理的節目の1900ポイントを割り込んだ。米中対立の再燃に対する懸念が重荷となったほか、連休前の大幅上昇を受けて利益確定売りが優勢となった。休場明けの6日に1900ポイントを回復し、その後も総じて堅調に推移。国内外で新型コロナの防疫措置で停滞していた経済活動の再開に向けた動きを好感した買いが相場を押し上げた。8日は米中閣僚の電話協議を受けて関係悪化に対する警戒感が和らぎ、4月末以来の高値で終えた。今週は高値警戒感が台頭しそうだが、景気を持ち直し期待が相場を支えるか。週後半にかけて発表される4月の中国経済指標が注目材料。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で1.0%高と3週続伸、今週は原油相場をにらむ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.0%高と3週続伸。原油相場の急反発を好感して前週に4.0%高と大幅に続伸したRTS指数は先週も原油高を追い風に、もみ合いながらも続伸した。ブレント原油先物が前週に23.3%高と4週ぶりに大幅反発し、先週も17.1%高と続伸したことでロシア株も堅調が続いた。週明け4日は新型コロナウイルスのパンデミックの責任を巡り米中関係悪化に対する懸念の高まりでRTS指数は前営業日比2.3%安となったが、5日はブレント原油が10%近く上昇したことを好感し、指数は3.1%高と反発。6日は原油相場の上昇一服で反落したものの、週後半は経済活動の再開期待や米中関係悪化懸念の後退を背景に欧米株が堅調に推移し、ロシア株の追い風になった。今週も原油相場や欧米株価をにらんだ展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は5.8%高と3週ぶり反発、今週は景気回復期待が支えるか

るか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で5.8%高と3週ぶりに大幅反発。VN 指数は前週に1.0%安と続落したが、先週はフック首相による強気の経済成長率見通しや欧米株の堅調な推移が追い風となった。週明け4日は米中関係悪化懸念から東南アジア市場全般が売りに押され、VN 指数も0.9%安と反落したが、5日に小幅に反発し、6日は2.4%高と大幅続伸。フック首相が2020年に5%以上の成長率を維持すると、IMF 予想を上回る強気な見通しを示したことが好感された。その後も経済活動の段階的再開や米中関係の悪化懸念の緩和を背景にした米株高で週末まで堅調な値動きが続いた。VN 指数は5日から8日まで4日続伸。8日は813.73ポイントで引け、3月中旬以来の水準を回復した。今週は新型コロナ後の景気回復期待を背景に堅調か。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.5%安、今週は 4 月の貿易統計が焦点

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 2.5%安と反落。週初に下落すると、その後もさえない値動きが続いた。4 日は 4 月の CPI 上昇率が市場予想を下回ったことが売り材料視され、前営業日比 2.4%安と 5 日ぶりに反落。一方、5 日は 1-3 月期の GDP が前年同期比 3.0%増と 19 年ぶりの低い伸びに落ち込んだものの影響は軽微で反発した。ただ、6 日は 4 月の消費者信頼感指数が 84.8 と 08 年 7 月以来の低水準となり、指数は反落。ワイサク（ブダの生誕記念日）の祝日を挟んだ 8 日も続落して引けた。今週は 15 日に 4 月の貿易統計が発表される予定で、貿易収支が 3 カ月連続で前年同月の水準を上回れば好材料。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレートタイムズ指数は 1.2%安、米中関係の悪化懸念を嫌気

ストレートタイムズ指数は 4 日間の取引で 1.2%安と反落。週初の下落が痛手だった。4 日は前週末の NY ダウが米中関係の悪化懸念を受けて続落した流れを引き継ぎ、前営業日比 2.3%安と 5 日ぶりに反落。一方、5 日は前日の取引終了後に発表された 4 月の製造 PMI が 44.7 と 3 カ月連続で前月の水準を下回った上、3 月の小売売上高が前年同月比 13.3%減と低迷したものの、影響は少なく指数は反発した。6 日は前日の NY ダウが続伸した効果で買われると、祝日を挟んだ 8 日も前日からほぼ横ばいで取引を終えている。今週は国内の重要イベントが少なく、米中関係の動向が指数を左右する展開が続きそうだ。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.7%安、4 月の CPI 下落率は前年同月比 3.0%

SET 指数は 3 日間の取引で 2.7%安と 6 週ぶりに反落。週末に反発したが補えなかった。連休明けの 5 日は、4 月の CPI 下落率が前年同月比 3.0%と 09 年 7 月以来の落ち込みとなった影響などで指数は前営業日比 1.8%安と 5 日ぶりに反落。ウィサカブーチャ（仏誕節）の祝日を挟んだ 7 日は、前日の NY ダウが民間調査による雇用指数の悪化と、新型コロナウイルスの発生源を巡る米中対立を受けて反落した流れで前日比 1.6%安と続落した。8 日は反動で買い戻されて引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、パウエル FRB 議長の演説や中国の 4 月の鉱工業生産と小売売上高の内容が指数を左右する展開か。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.8%安、今週は 13 日に 1-3 月期の GDP 発表

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 1.8%安と反落。一進一退の値動きが続いた。週初は 4 日は、4 月のマークイット製造業 PMI が 31.3 と前月の 48.4 から急落した影響で、指数は前営業日比 2.2%安と 5 日ぶりに反落。一方、5 日は中央銀行が政策金利を 0.5%引き下げ、2.0%に設定した効果で買い戻された。6 日は引け際に売られて反落したが、祝日を挟んだ 8 日は米中高官が電話での貿易協議を実施し、両国関係の緊張緩和に対する期待が高まった効果で反発して引けている。今週は 12 日に 3 月の鉱工業生産、13 日に 1-3 月期の GDP が発表される予定。11 日はコーラン啓示の日の振替休日で休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合もあります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。